

平成29年度地区推進会議 会議録

1. 開催日時：平成29年6月28日(水) 午後5時30分開始

2. 開催場所：全日警ホール 2階 第3会議室

3. 出席者

各地区委員 : 35名

社会福祉協議会：萩原常務理事、鶴ヶ谷事務局長、山崎事務局次長 ほか

地域支えあい課：杉山課長、飯島主幹 ほか

福祉政策課 : 若菜課長、白井主幹 ほか

4. 議事

(1) 地域福祉計画のアンケート結果について

(2) 次期地域福祉計画策定について

5. 配布資料

会議次第

資料1 市川市地域福祉計画策手のためのアンケート調査報告書(抜粋版)

資料2 次期地域福祉計画策定について

策定スケジュール

席次表

6. 進行

(1) 課長挨拶

(2) 職員紹介

(3) 事務連絡、配布資料の確認

| 区 分 | 内 容 |
|---------|---|
| 事務局(白井) | <p>本日はお忙しい中、地区推進会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。本日の進行を担当させていただきます福祉政策課の白井でございます。よろしくお願いいたします。</p> |
| 事務局(白井) | <p>なお、本日ご出席いただいている委員の方は、お配りした席次表の通りとなります。</p> |
| 事務局(白井) | <p>それでは、福祉政策課長 若菜よりご挨拶申し上げます。</p> <p style="text-align: center;">(課長挨拶、出席者紹介、資料確認)</p> |
| 事務局(白井) | <p>それでは1点お願いがございます。議事録を作成する都合上、ご発言いただく際は、お近くのハンドマイクをお使いいただき、地区及びお名前をお伝え下さいますようお願いいたします。また、ご発言が終わりましたら、お手数ですがマイクのスイッチをお切り下さいますようお願いいたします。</p> |
| 事務局(白井) | <p>それでは、ただいまから、平成29年度地区推進会議を開催いたします。</p> |
| 事務局(白井) | <p>まず会議次第1の「地域福祉計画のアンケート結果について」福祉政策課長若菜よりご説明させていただきます。</p> |
| 若菜課長 | <p>(資料1 市川市地域福祉計画策定のためのアンケート調査報告書(抜粋版)について 説明)</p> |
| 事務局(白井) | <p>質問はないようですので、会議次第2の「次期地域福祉計画策定について」にまいりたいと思います。福祉政策課若菜よりご説明させていただきます。</p> |
| 若菜課長 | <p>(資料2 次期地域福祉計画策定について、策定スケジュール 説明)</p> |
| 石崎委員 | <p>私は社会福祉審議会の委員をさせていただいて、前期の地域福祉計画策定に携わっておりまして、今の課長のご説明の中でいくつか疑問点がございます。事務局からの考え方として、変更点をお述べになりました。四角の中には「あくまで審議会等の意見をふまえた上で総合的に判断するので、決定事項ではない」と書いてあるので少し安心をしておりますが、大幅な変更に戸惑っております。今回政府の方で地域包括ケアシステムの強化に向けて色々改定がありまして、それはご説明のとおりだと思います。要は包括的な支援体制をきちんと整備することがとても重要だということ</p> |

となのですが、市川市では2001年から地域ケアシステム立ち上げまして、16年の歴史があります。いくつかの計画について横串を刺すのは、3期の計画でも2期の計画でも同じように手を尽くしています。先ほどおっしゃった中に、「個別計画に記載されている施策・事業については、詳細な内容を重複して記載しない」というようにおっしゃいましたが、3期の計画の中においては、それまで進行管理事業があまりにも多かったので、進行管理をする事業と、進行管理は他の計画に任せる関連事業と2つに分けて表記しております。進行管理事業の方は数値目標を設定し、進行管理していく。子どものこと、介護保険のこと、障害者のことはそれぞれの計画が進行管理すればよいというふうに分けたつもりです。それをどうして表記から外してしまうのかと思います。障害、高齢、子どものことも横で見ながらやっていかなければならないので、詳細な内容を重複して記載しないというのは異論があります。前期計画ではそのような配慮をさせていただいているので、あえて変える理由がよくわかりません。

もう一つ。「互助・共助」で私たちが行っている地域ケアシステムの事業を詳細に記載し、具体的な目標を設定というのは重要なことではありますが、これだけに特化してしまうと計画そのものが小さくなってしまいます。地域で様々な活動をしていると、「障害者のサービスについて足りないものがある。」「高齢者はこれだけ介護保険が進んでいるけれども、まだもれている部分がある。」などと感じることがあります。そういったことを政策に反映してもらいたくてここに集まっているわけなので、重複しているという理由で記載しないというのはいかなるものかと腑に落ちない点があります。

それから計画期間を5年ではなく6年にするということですが、4つの計画の改定時期が一緒になると、相当な仕事量になると思います。私も審議会の方で障害者の分野をやらせていただいたこともありますが、障害者一つをとっても計画を作るのはとてつもなく大変ですのでそれはどうなのか、と感じております。

それから、福祉圏域についてですが、3期の地域福祉計画の中では全体計画とともに地区別計画を入れております。3圏域が妥当かどうかというのは議論になっていましたし、中部が大きすぎるから東西に分けて4圏域にするという話も聞いたことがあります。そういった概念をすっかりなくしてしまって14地区にするとなると、基幹福祉圏という概念が全くなくなってしまいます。アンケート調査結果を見ても、北部・中部・南部では市民の方のお気持ちが多少違うと思います。南行徳の方は非常に大きな範囲で拠点はまだ足りない、中部の方は人口が多くて高齢化が進んでいる、国分のほうでは農業地区があるとか、それぞれの特徴を踏まえた上で、圏域ごとにどう課題を克服していくかというのが一つ大事なポイントです。小域福祉圏を大事にする考えのもとにそこから共通項目を拾って基幹福祉圏の課題を作っていくので、これを小域福祉圏だけにしてしまうと、社

協がやってくださっている、「わかちあいプラン」とどのように違いがでてくるのだろうという疑問があります。もう一度説明していただきたいと思います。

それから、この地区推進会議の中身についての説明はしっかり課長のほうからありました。私たちが地域で活動していて、疑問に思うこと、課題に思うことをここへ持ってきて、市の政策で足りない面、ここは使いにくいと思う面を課題として提言させていただいて、それを地域福祉計画の中に取り込んでいただく、そして、地域包括ケアシステム推進委員会ですっきり市内の連携をとっていくという言葉信じて疑いませんが、地区推進会議が全体で1つとなることに少し違和感が残ります。この会議は、3圏域で3回ずつ開く、つまり9回フォローしていた時期がありました。それはとてつもなく大変なご苦勞だったと思います。ですが、皆さんが身近に集って発言できて良かったと思います。全部を1つにしてしまうことにも疑問があるので、お答えいただけますか。

若菜課長

まず一つ目ですが、法改正の中で地域福祉計画は共通理念を定める計画であるということが明確になりました。他の市町村の計画も確認すると、地域福祉計画は市川市のように詳細に作成せず、理念的に作成しているところが多かったというのが理由として一つございます。

また、1つの事業を地域福祉計画でも他の計画でも数値目標を設定し、進行管理をするとすると、その分ムダが生じてしまう、手間がかかってしまうと感じています。

石崎委員

3期計画では、進行管理事業と事業内容をのせているだけの関連事業に分けていて、すべて進行管理する計画ではなかったもので、それと同じことをしてもいいのではないかという意見です。

若菜課長

現在は理念計画として重複する部分は割愛させていただくという話をさせていただきましたけど、それが良いか悪いかということも含めて再度検討させていただきたいと思います。

次に6年の計画期間ですが、同時期に合わせてしまいますと非常に体力的に厳しいのはおっしゃるとおりです。しかしこれを合わせることでそれぞれの関連する分野の職員も含めて皆が同じ方向を向けるというメリットがございます。また、時期がずれることにより、その時のタイミングによって数値目標にずれが生じることも想定されます。メリット、デメリットはございますが、それらを踏まえながら6年を提案させていただいております。

次に圏域の話でございますが、現在は市の地域福祉計画の方では3地区の地区別計画を定め、社協のわかちあいプランで14地区の地区別計画を定めておりますが、これにより、社協を含めた市全体としての意識やエネ

| | |
|------|--|
| | <p>ルギーなどが分散しやすくなっていると考えております。また、地域性の異なる 14 地区を 3 圏域にまとめることにより、特色や地域課題などがわかりづらくなってしまっておそれがあると考えております。これを 14 地区に一本化することによって、地域の皆様方、社協、市が、14 地区ごとの地域課題の把握、進行管理などをダイレクトにできるのではないかと考えております。</p> |
| 石崎委員 | <p>わかちあいプランとの違いはなんですか。</p> |
| 若菜課長 | <p>「自助」、「互助・共助」、「公助」の役割分担がありますが、地域福祉計画では、公助の部分を中心に定めています。わかちあいプランについては逆に公助を除いた互助・共助が中心になっており、その差異があると考えております。</p> |
| 石崎委員 | <p>最初の進行管理事業と関連事業に分けて表記されている 3 期計画での書き方については、意見として取り上げていただいて、審議会等でも議論していただきたいと思います。</p> <p>4つの計画で策定期限を合わせるということは大変なことだと思いますが、各計画を所管しているのは担当課とのやりとりを重要視していただきたいと思います。</p> <p>圏域のところは 3 期計画を策定した者としては、地区別計画を外す、やめる、削除するというのは非常に辛いところでもあります。14 地区に重点を置くということで、わかちあいプランの方は市民サイドでできることをやっていく、そして地域福祉計画は公助の部分を中心に 14 地区別計画を作るということですか。</p> |
| 若菜課長 | <p>それは違います。</p> |
| 石崎委員 | <p>14 地区別計画はないということによろしいですか。公的なサイドの様々な事業だけがこの計画に載って、そして地区別計画は一切なくなる。そうになると、私たちの活動を支援してくれるかを載せてくれる計画にはならないということですか。</p> |
| 正木主査 | <p>事務局の考え方といたしましては、地域福祉計画のなかでは市全体としての計画になりますが、その中で公が果たすべき公助部分、それから支えあいの共助・互助の部分、そして自助の部分に分けて記載をしていきます。それと併せていかに各地域の課題を吸い上げ検討し、施策に繋げていくかという仕組みを書いていきます。そこで把握をした課題、解決策、役割分担をわかちあいプランの地区別計画と連携させていくということを考えております。地域課題の把握をして解決策の検討を本腰を入れて具体的に</p> |

| | |
|-------------|---|
| | <p>取り組んでいくのは、おそらく計画期間が始まってからだと思います。今度作成するわかちあいプランの次のわかちあいプランのところにそういった内容を連動させていけるように社協さんと考えていきたいと思っております。</p> |
| <p>石崎委員</p> | <p>自助、共助、公助の政策ごとに何ができるかというのが書いてあるのですが、それで終わりということですか。自助、共助の部分はわかちあいプランで、地域福祉計画では公助の部分だけを載せていくということですか。</p> |
| <p>若菜課長</p> | <p>公助の部分だけでないです。それ以外の部分についても書かせていただきます。</p> |
| <p>石崎委員</p> | <p>一人で長く喋るのは良くないですが、納得はしていません。もう一回くらいしか話ができるチャンスがないので8月中旬までに、是非納得できるような回答をしっかりと考えていただきたいと思います。</p> |
| <p>岩松委員</p> | <p>2点ほどあります。</p> <p>アンケート調査報告書の46ページに各機関の満足度があります。政策課題の実行においてこの評価というのは我々が推進する上で非常に大事なところだと思っています。また今後の政策立案と現場の実行についてですが、地域の方々の中では支えあいというのが大きな関心ごとになっています。そうした中で、地域との触れ合い活動をどのようにするかということで、大勢の方が触れ合う機会を作ろう、そのために、活動を大勢の方に知ってもらおう、ということで色々な活動をしています。基本理念も行動指針もそんなに変わるものではないので、あとは、どれだけ活動に継続性を持って現場に浸透させていくかという根気強い活動になっていくと思います。そういう意味で現場にもう少し情報収集の状態を聞いていただいて政策課題を検討していただきたいです。46ページの満足度の地域支えあい課を見ますと、10.3%しかありません。それからコミュニティワーカ―制度を導入したのもこの5ヵ年計画です。地域の課題に関する企画提案をどれだけ我々現場にさせていただけるかと心強い感じはしたのですが、提案するのはなかなか難しいんです。それほど簡単にできるものではありません。現場に入り込んで実情を把握していかないとその地域にあった提案というのはなかなかできません。今配置された方々は少ない人数で一生懸命やってくれていると思います。ですが、コミュニティワーカ―と地域支えあい課はあがってきた課題についてどのような議論をしているのか、次の手立てを考えてくれているのかという姿は見えません。このデータを反省材料として改善策を考えていただきたいと思います。</p> |

それから 14 地区はそれぞれの地域性がありますので、意味のある区割りだと思えます。しかし、いくら政策課題を設定しても、日々の活動の中で交流を共にして行かないと、なかなか実現していかないと思えます。現場と、社会福祉協議会、行政の話し合いの場があって、あるいは情報提供したらフィードバックするような制度があればいいのではないかと思います。14 地区にするのは地域の特性も踏まえた取り組みだと思えますが、他の地区はどうなっているのか、横の連携も大事にしてほしい。新しい高齢者の取り組みをも加わっているようですし、活動の範囲が広がるので、より行政との連携を密にした、効果がもっと上がるような仕組みを考えていただきたいと思えます。

若菜課長

ありがとうございます。地域の活動の継続は大変なことだと思います。地域ケアシステムもしかりで、10 年以上やっていますけれどもなかなか周知がうまくいかない、ということもございますが、地域の活動の継続は皆様のお力添えなくてはできないことであると思っています。

おっしゃっていただきましたとおり、14 地区それぞれの交流も重要なところですね。この地区推進会議は継続して行うわけでありまして、その中で皆様の活動の情報交換・交流を図っていただけると思っております。いずれにしてもやはり、調査報告書 46 ページの満足度を少しでもあげられるように行政と皆様方が、顔が見えるような間柄で本音を言い合えるように、市役所の中でも連携を図って地域に出ていけるようにしたいと考えております。

松藤委員

アンケート調査報告書の 28 ページで、「支援を必要とする方のためあなたが行いたい活動はありますか」とありますが、その中で多いのが、ひとり暮らし高齢者の安否確認や、地域の情報伝達、高齢者の話し相手、などとなっています。地区社協ではなく、須和田第 3 自治会の活動になるのですが、高齢者や障害者の方のところへ自治会役員が定期的に回り、御用聞きや話し相手になる、といったことをやっております。また、高齢者の方々が一同に会して顔を合わせる機会を作ろうということで、ふれあい会食会なども行ってあります。全体の会議の際にいつも感じるのですが、こういうひとつひとつのことを地域でどんな風にやっていくのだろう、他の地域はどのようにやっているのだろう、何が良くて何がダメだったのか。そのようなことをお互いに情報交換していくことで、活動が生き生きとできていくのではないかと思います。そのようなことをこういう会議でもっと具体的に話していただけたら良いのではないかと思います。

若菜課長

どうもありがとうございました。ふれあい会食会や、地域の活動などで顔を合わせられることは非常に大事なことだと思います。そして、松藤委員がおっしゃっていたように、一同に会する場で情報を共有して、それぞ

| | |
|-------------|--|
| | <p>れの地区の活動を知れるような場にできるよう、この地区推進会議を運営していきたいと考えています。</p> |
| <p>歌代委員</p> | <p>今までの計画の中では、学校との繋がりがほとんど書いてありません。福祉教育推進校というのがありまして、3年間の補助を受け、活動しております。こういったことはご存じでしょうか。</p> |
| <p>若菜課長</p> | <p>申し訳ございません。勉強不足です。</p> |
| <p>歌代委員</p> | <p>今後学校教育の中で、道徳教育とともに、福祉教育が重点的に入ってくるようです。ですから、今後の計画として、福祉教育推進校を念頭に置いて、計画の策定をお考えいただければと思います。</p> |
| <p>若菜課長</p> | <p>ありがとうございました。私の勉強不足の点もございますが、今いただいた意見も参考に検討していければと思います。</p> |
| <p>石崎委員</p> | <p>今日は、議題1のアンケート調査の結果の報告と、議題2の地域福祉計画策定の事務局の考え方で終わりなのでしょうか。8月末まで議論する場がないのです。地域の課題をそれぞれあげて、聞いていただいて反映していただくことが、地区推進会議の一番の目的だったはずですが、そのような時間はないということですね。</p> <p>私たちの地域ケアシステムの活動を、日頃支えてくださっているのは社会福協議会の担当者、地域支えあい課の担当で、会議に寄り添って、意見を聴取し、課題は何かとまとめてくださっています。昨年3月に地区推進会議を開いていただきましたが、その中で課題もいくつかあがり、議事録がまだあがっていないので私のメモによりますと、担い手の養成、人材台帳の整備、拠点のPR、各課題の把握、行政政策への反映、個別支援を総合事業に反映できないだろうかという点、地域資源の掘り起こし、地域連携などを今後の課題としてまとめていただきまして、私としてはありがたいまとめを聞かせていただいたと思っています。これが本来は、今日この席で取り上げられるべき課題であったのではないかなと思います。時間が足りないと申し上げたのはそういうことなのですが、地域支えあい課の方からは、このまとめを福祉政策課の方に提出されていると報告を受けています。アンケート調査報告書18ページにも「超高齢社会の現実を踏まえて、支え合いの地域づくりを推進するため、支え合いの仕組みづくり、相談体制の強化や人材の養成・確保等の取り組みを一層充実させていくことが重要である。」と記載されているように、これらが我々の地域活動での課題であると十分認識していただいて、地域支えあい課からでたまとめについて吟味していただいて、しっかり反映していただきたいと思っています。</p> |

| | |
|---------|--|
| 若菜課長 | <p>庁内関係部署でのワーキンググループの会議において、今おっしゃっていただいたような皆様からお伺いしている課題などをあげていただいて、まとめをさせていただいているところです。昨年の地区推進会の議事録も作成中でございますので、今後ホームページにアップしていきたいと思っております。それらも踏まえて課題については検討していきたいと考えております。よろしくお願いいたします。</p> |
| 事務局(白井) | <p>他に何かございますか。いらっしゃらないようですので、事務局よりご連絡いたします。まず、現在の委員のみなさまの任期については平成 29 年 6 月 30 日までとなっております。皆様におかれましては、本市の福祉行政並びに地域福祉活動にご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございました。次期地域福祉計画では、皆様にいただいた貴重なご意見を反映し、より良い計画となるよう努めてまいります。本当にありがとうございました。</p> <p>最後に次回の会議開催についてですが、委員改選後の 8 月末頃を予定しております。詳しい日程が決まり次第、ご案内をさせていただきたいと思っております。以上でございます。ありがとうございました。</p> |